

ることを大切にしたい、そしてもっと人生を楽しみたいと思っています。

「かわいく・楽しく・元気よく」をモットーに、行田でハッピーになってもらえるように、これからもみんなで力を合わせて頑張りたいです！

今後、この「おもてなし」活動が更に広がり、地域や職業に関係なく、全市民で「おもてなし」ができるまちになることが私たちの夢です。

#### 4 最後に

以上、「忍城おもてなし甲冑隊」と「行田おもてなしガールズ隊」2つの「おもてなし」活動を紹介させていただきました。その共通点は心から自分のまちを愛し、訪れた観光客に対して心を込めて「おもてなし」を行っていることです。

「忍城おもてなし甲冑隊」や「行田おもてなしガールズ隊」の「心を込めたおもてなし」活動が各方面に広がり、市民の郷土意識が高まるとともに観光客に対して楽しく安らぎのある滞在時間を提供したいと思っています。



「おもてなしの心」で私たちが皆様をお待ちしております

## 職員の声

### ところ変われば

埼玉県総務部人事課付 羽鳥 順子

自己啓発のための読書は嫌いだった。仕事に必要なスキルや知識は、仕事を通じて身に付けられれば良いと思っていた。ビジネス書や教養書を読んでいる自分を想像すると気恥ずかしくもあった。周りの同僚や先輩から自己啓発をしているという話を聞いたことがほとんどなかったからだ。

それが今では、その類の本が部屋の本棚に並び始めている。きっかけは1年間の民間企業への派遣だった。

派遣先の企業では誰もが良く勉強していて、自分の得た知識や考えをオープンに伝え合っている。例えば、若手社員は自主的な勉強会に参加し、課題図書を読んで意見交換を行っている。朝のスタートミーティングでは、スピーチ担当者が自分の読んだ本を紹介することが度々あった。社員研修では2週間に1冊のペースで本を読むことを勧め、自己啓発の計画書を具体的に作成させている。ある若手技術者は、サマータイムの導入で早起きの習慣がついたので、早朝の読書を日課にしていると言っていた。

そんな人たちの中に身を置いていたら、自己啓発をしていないことの方が恥ずかしい。勉強会の課題図書から始めて、研修で推薦している図書を中心に読み進めている。成果のほどはともかくとして、環境が変わるだけで自分の行動も簡単に変わるものだと実感した。元の環境に戻っても行動は元に戻さずに、身に着いたこの習慣を維持したい。

最後に、民間企業に派遣されてからの変化をもう一つ。始業20分前までに出勤するようになり、1日のスタートがぐっとスムーズになりました。